

国内マグネシウム 2017 年需要実績／2018 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

分類\年	2012	2013	2014	2015	2016	2017 実績	前年比	2018 予測	前年比予測
ダイカスト	6,379	5,800	5,800	5,800	5,300	4,800	90.6%	5,000	104.2%
鋳物	55	70	70	70	70	70	100.0%	70	100.0%
射出成形	400	300	300	300	400	480	120.0%	500	104.2%
展伸材	584	760	700	750	750	770	102.7%	800	103.9%
その他合金	800	1,030	200	230	200	230	115.0%	230	100.0%
構造材小計	8,218	7,960	7,070	7,150	6,720	6,350	94.5%	6,600	103.9%
アルミ合金添加	19,485	18,800	21,000	20,800	21,500	22,000	102.3%	22,200	100.9%
鉄鋼脱硫	4,140	3,950	5,500	5,600	5,500	5,500	100.0%	4,500	81.8%
ノジュラー鋳鉄	2,327	2,340	2,725	2,200	2,500	2,600	104.0%	2,600	100.0%
チタン製錬	740	60	420	1,000	800	600	75.0%	700	116.7%
化学・触媒	1,860	1,800	1,800	2,200	2,100	1,800	85.7%	2,200	122.2%
添加材小計	28,552	26,950	31,445	31,800	32,400	32,500	100.3%	32,200	99.1%
防食その他	606	620	1,200	1,200	950	990	104.2%	1,000	101.0%
内需小計	37,376	35,530	39,715	40,150	40,070	39,840	99.4%	39,800	99.9%
輸出	642	330	575	1,158	600	227	37.8%	300	132.2%
総需要	38,018	35,860	40,290	41,308	40,670	40,067	98.5%	40,100	100.1%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

<2017 年の需要実績>

- ①2017 年の国内マグネシウム需要量は、添加材向けの需要が前年比 0.3%増、構造材向けの需要が同 5.5%減、輸出が同 62.2%減となり、全体では 40,067 トンで前年から 1.5%減となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要では、射出成形部門が 400 トンから 480 トンに、展伸材部門が 750 トンから 770 トンに増加した。世界中で排ガス等の環境規制が強まってきていることから、環境負荷の少ない製造工程である射出成形品の需要増に、押出材や板材等の製造技術の向上が展伸材の需要増に繋がったものと思われる。その他は、鋳物分野は横ばいの推移、自動車部品や携帯電子機器部品など構造材向けで最も需要の多いダイカスト部門が 4,800 トン、前年比 9.4%減という厳しい推移となり、構造材向け全体では前年比 5.5%減の 6,350 トンと 2 年続けてのマイナスでの推移となった。輸送分野の他、エネルギー、医療等の新しい分野において活発な研究開発等が行われているが、マグネシウム合金製品の海外生産の流れが続いており、需要回復にはまだ至らなかった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、アルミ合金添加分野とノジュラー鋳鉄分野が前年から若干増加となり、それぞれ前年比 2.3%増の 22,000 トン、同 4.0%増の 2,600 トンとなり、鉄鋼脱硫分野は横ばいの推移、チタン製錬分野、化学・触媒分野は減少し、それぞれ同 25.0%減の 600 トン、同 14.3%減の 1,800 トンとなった。全体では前年から 0.3%増加の 32,500 トンと微増での推移となった。
- ④防食その他は、数量のうち約 100 トンが防食向けの需要で、これはほぼ横ばいでの推移となり、その他の特殊な用途での需要量が微増し、前年比 4.2%増の 990 トンとなった。
- ⑤地金の輸出は、比較的量の多かったアメリカ向けのマグネシウム合金地金の輸出量が 0 となったこともあり、前年から 62.2%減の 227 トンとなった。

<2018 年の需要予測>

- ①2018 年の国内マグネシウム総需要量は 40,100 トン、前年比 0.1%増とほぼ横ばいの推移になるものと予測した。
- ②構造材向けの需要は、輸送分野等におけるニーズの高まりや活発な研究開発が継続されることから、各分野とも若干増加するものの、需要量が大きく増加するにはまだ少し時間がかかるものと見られ、ダイカスト 5,000 トン、鋳物 70 トン、射出成形 500 トン、展伸材 800 トン、その他合金 230 トン、合計で前年比 3.9%増の 6,600 トンと予測した。
- ③添加材向けの需要は、鉄鋼脱硫分野が国内における高炉停止により前年比 18.1%減の 4,500 トン、化学・触媒分野は国内回帰の動きがあるものと見られ同 22.2%増の 2,200 トン、その他は横ばいから微増で推移し、アルミ合金添加分野が 22,200 トン、ノジュラー鋳鉄分野は 2,600 トン、チタン製錬分野は 700 トンと予測した。添加材向け全体では 32,200 トン、同 0.9%減と予測した。
- ④防食その他及び輸出もほぼ横ばいで推移するものと予測し、それぞれ 1,000 トン、300 と予測した。